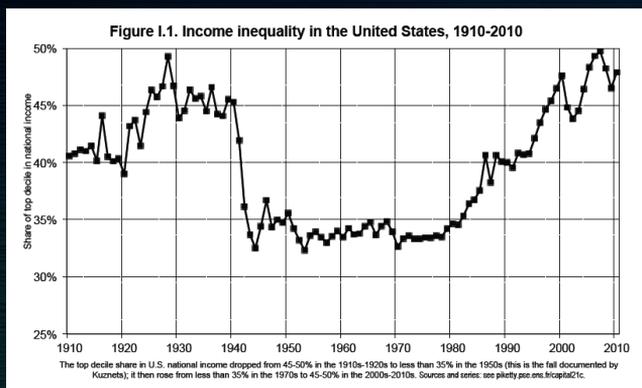
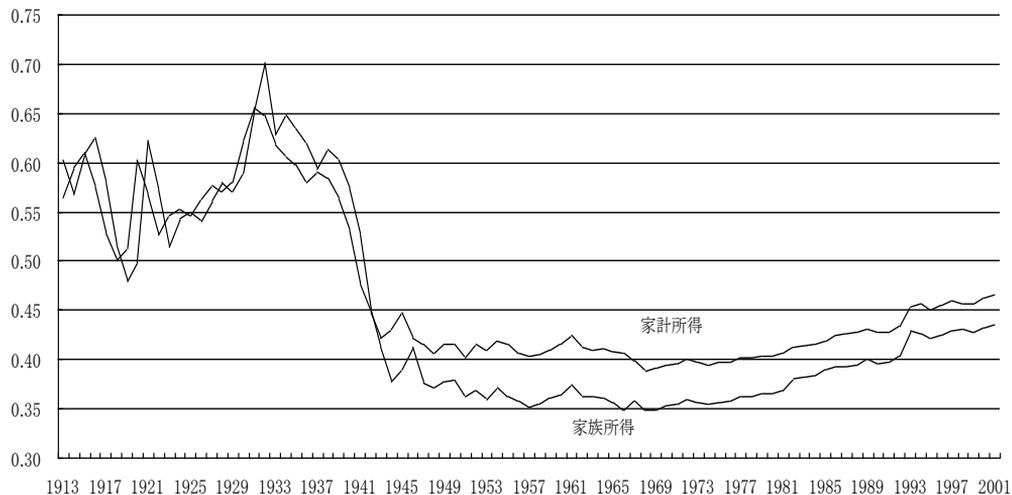


ピケティ『21世紀の資本』と資本主義の未来  
2015年4月12日 国際連帯税フォーラム  
本田浩邦（獨協大学）



- 今日先進国は、格差の強い19世紀の状態から二つの大戦を経て戦後の平等化された分配状態へ移行した。所得分配の平等化は、技術革新や教育の普及、人口動態や移民といった要因よりも、所得や賃金に対する「社会的規範意識」が二つの大戦を経て大きく変化したことによる。アメリカでは、戦時経済下の賃上げの許可制、最高税率が90%を超える累進課税制の強化などの制度的変化として現れた。
- 平等化された所得分配の状況は1960年代まで維持された。しかし、70年代以降、再び経済格差が強まりはじめた。その理由は、格差を押さえ込んできた戦後の所得分配をめぐる社会的規範意識が変化し、それによって制度的前提に変化が起こったことによる。

図1 ジニ係数の長期的推移(1913-2001年)



(出所) 1913年から65年までの家計所得および1913年から46年までの家族所得の推計値はPlotnick et. al.(1998)による。その他は、Bureau of Census, Homepage, Historical Income Table, Household, Table H-4, F-4. による。

●アメリカやイギリスでは、高額所得層に対する累進税率の引き下げによって上位集中型の新たな所得と資産の格差が生まれた。この数十年間で所得と資産の多くを集中したのは最上位1%であり、アメリカでそれらは現在、所得のおよそ20%、資産の30%を占め、それらが所得拡大の主因、つまり今日の経済格差の病巣となっている。歴史的に見れば、20世紀半ば以降の平準化された所得分配がむしろ例外であり、現在の所得分配は第一次世界大戦以前の状態への回帰を示すものである。

#### 所得下位層のそれぞれの特徴を複合的に説明

上位層の所得集中→高額所得に対する減税

中位層の格差拡大→教育、熟練など労働市場の需給要因

下位層の所得低迷→最低賃金など制度的説明

### スーパースター・モデル (ルイジ・ジンガルス『人びとのための資本主義』)

- ゴルフのマスターズの優勝賞金は2008年のドル換算で1948年に2万2千ドル。2008年には135万ドル。グリーンキーパーの年収にすると3倍から103倍に。しかし実質ベースで上昇したのは1980代後半以降。
- 世界の他のメジャー選手権、つまり全米プロ、全米オープン、全英オープンより賞金が少なければマスターズはその名声を失うおそれがある。賞金は1980年代後半以降大幅にあがった。



- 「スポーツでもビジネスでも見られる賃金不平等拡大の原因は一言に要約できる。グローバリゼーションだ。グローバリゼーションは競争を激化させ、最高であることへの報酬を高め、そうして不平等を拡大している。分け合うパイを大きくしたのも確かだ。マスターズを観戦する人が増え、多くのスポンサーグッズが世界中で売られ、多くの国際企業が大会のテレビ放映のスポンサーになりたがる。しかし、こうした便益は、きわめて不平等な形で分配される。メーカーとの用具使用契約の分配はされに不平等になる。全盛期のタイガー・ウッズの賞金は1200万ドル、用具使用契約で1億ドルを稼いでいたのに対し、男子ランキング二位のフィル・ミケルソンの報酬は賞金が400万ドル、用具使用契約料が4700万ドルで、三位の選手の稼ぎは両方合わせても1500万ドルに満たなかった」(ジンガルス)

ジンガルスはグリーンキーパーとタイガー・ウッズの報酬格差を「スキル・プレミアム」と呼んでいる。これは正しいか？



### スーパースター・モデル

●「1936年、ジェシー・オーエンスは100メートル走で世界記録を手に入れました。もしジェシー・オーエンスが去年、100メートル走世界選手権に出場したなら、ゴールするジャマイカ人スプリンター、ウサイン・ボルトの4メートル後ろを走っていたでしょう。…ジェシー・オーエンスはコークスを敷き詰めたシンダートラック上を走り、そのソフトな表面は遥かに多くのエネルギーを脚から吸収していました。更にオーエンスはスターティングブロックの代わりにスタートラインに穴を掘るのに園芸スコップを使いました。オーエンスの関節が動く速度を生体力学的に分析すると、ボルトが走った時と同じ舗装上を走っていたら、4メートル27センチではなく、わずか一步の差でボルトの直後を走っていたことになります」(デイヴィッド・エプスタイン「アスリート達は本当により速く、強くなっているのだろうか？」2014)

→スーパースターモデルの場合の「スキル・プレミアム」は、特殊な技能とそれを評価する市場構造の相関によって報酬が決まる。

## スーパーマネージャー・モデル (ピケティ)

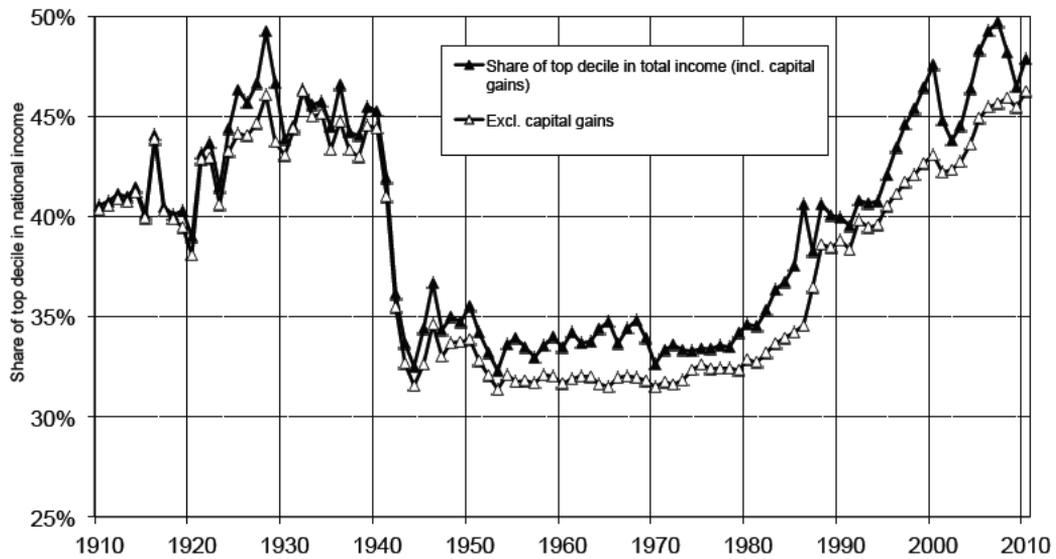
● 最上位0.1%の60~70%は経営者。トップアスリートや芸術家は5%に満たない。その意味でアメリカの所得格差はスーパースターではなくスーパーマネージャーの台頭によるもの。(pp.302-303)

● アメリカ、ヨーロッパ、日本の上場企業のデータで、経営トップの報酬とその企業の実際の収益の変化の相関関係を推計

・まず私たちは「偶発的な利益」と「非偶発的な利益」という区分を用いた。「偶発的利益」とは個々の企業の努力とは無関係に業界全体が潤う“たなぼた利益”を指し、「非偶発的利益」とはその企業独自の努力でえた利益を指す。たとえば石油業界が石油価格の上昇によって業界全体が儲かるようなケースが「偶発的利益」だ。このような経営努力と無関係にあがった収益に対しては、重役報酬は、「非偶発的な利益」の場合と比べて、さほど上がらなくてもいいはずだ。しかし実際は「偶発的利益」に対しても大幅な重役報酬の引き上げが見られた。つまり報酬と重役的能力や努力とは必ずしも結びついていないだ。(『パリ白熱教室』第4回)



Figure 8.5. Income inequality in the United States, 1910-2010



The top decile income share rose from less than 35% of total income in the 1970s to almost 50% in the 2000s-2010s.

Sources and series: see [piketty.pse.ens.fr/capital21c](http://piketty.pse.ens.fr/capital21c).

### 時代ごとの富（資産）格差

	ヨーロッパ (1910)	ヨーロッパ (2010)	アメリカ (2010)
上位層	90%	60%	70%
中間層	5%	35%	25%
下位層	5%	5%	5%

### 資本主義の第一基本法則

$$\alpha = r \times \beta$$

国民所得に占める  
資本(収益)の割合

資本の収益率

資本所得比率

### 資本主義の第二基本法則

$$\beta = \frac{s}{g}$$

貯蓄率

$s$

経済成長率

人口の増加率と  
生産性の増加率によって決まる

資本所得比率

### 資本主義の第一基本法則

$$\alpha = r \times \beta$$

国民所得に占める  
資本(収益)の割合

資本の収益率

資本所得比率

#### 例題

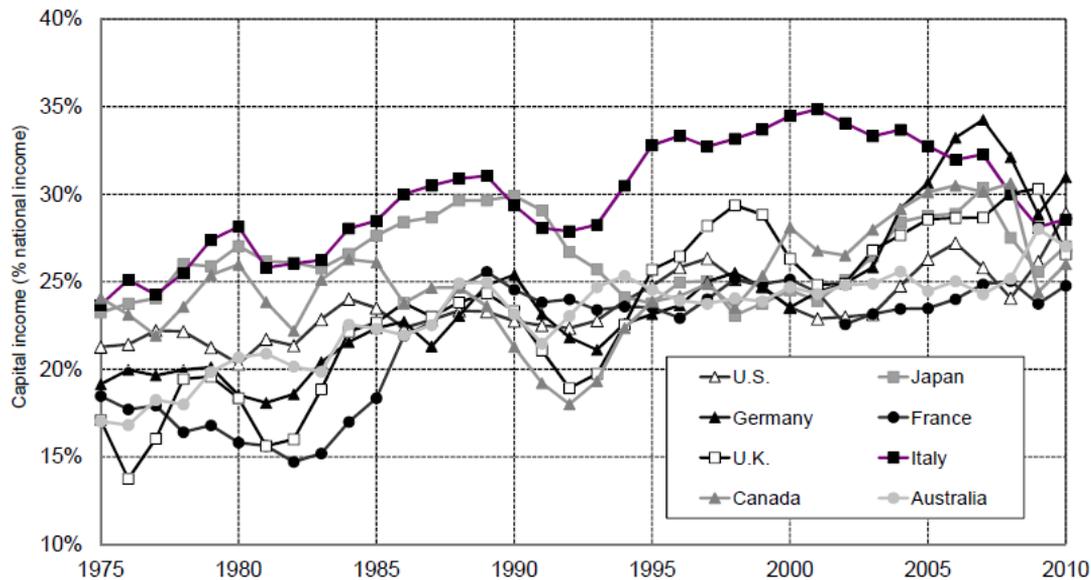
$$30\% = 5\% \times 600\%$$

国民所得の30%を  
資本による収益が占める

資本の収益率

国民所得の  
6年分の資産を持つ

Figure 6.5. The capital share in rich countries, 1975-2010

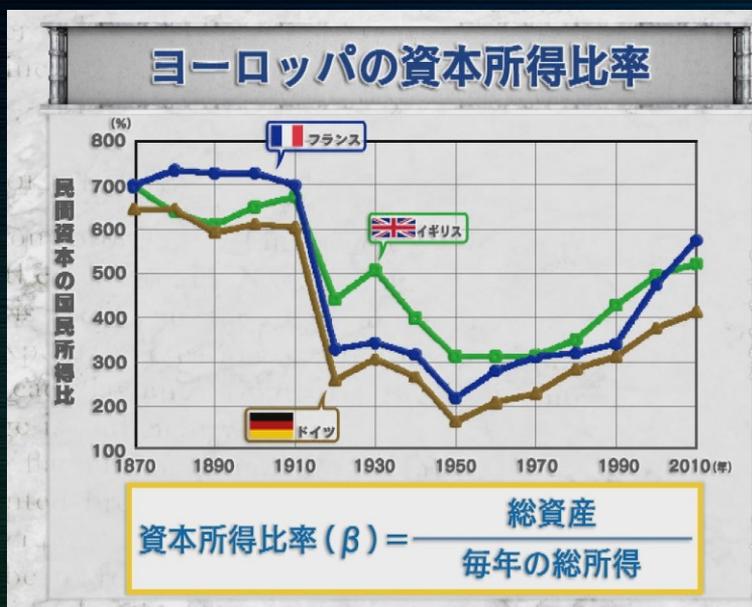


## 資本主義の第二基本法則

$$\beta = \frac{s}{g}$$

資本所得比率  $\beta$  =  $\frac{\text{貯蓄率 } s}{\text{経済成長率 } g}$

長期的な経済成長率  $g$  が低いと  
資本所得比率  $\beta$  が上昇する



$$\beta = \frac{\text{資産 (法人・家計・公的)}}{\text{年間の国民所得}}$$

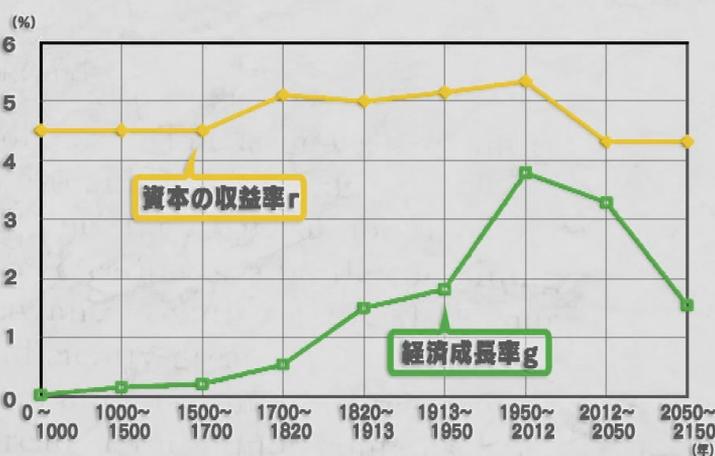
$$\alpha = \frac{\text{資本所得 (YK)}}{\text{所得 (Y)}}$$

$$r > g$$

「資本主義の歴史的事実」

資本収益率the rate of return on capitalが経済成長率を上回る事態は19世紀に見られたものであるが、それが21世紀に再びあらわれている。これは不可避免的に不平等を生み出し、民主主義の基礎であるべき能力主義的価値を損なう。

## 世界の資本の収益率と経済成長率



マーリンズのイチロー外野手（41）が、昨季まで住んでいたニューヨークのマンションがまもなく売りに出されると、（2015年2月）18日付のニューヨーク・ポスト（電子版）が報じた。6ベッドルームある超豪華物件で、不動産会社が1カ月の家賃を**3万2000ドル**（約380万円）程度に設定しているという。

マンションはマンハッタンにある都市公園「セントラルパーク」の北側に位置。エレベーターで上がると、部屋に直結する造りという。ワンフロアすべて、イチローのマンション。広さは約502平方メートルで、6ベッドルームがあり、各部屋には浴室も付いている。もちろん、台所やシャワールームも用意され、各部屋からはセントラルパークを一望できる。

また販売価格にすると、**1000万ドル**（約11億9000万円）に達し、昨季限りで引退したデレク・ジーター氏（40）やヤ軍のアレックス・ロドリゲス内野手（39）も過去に見学した物件と伝えられている。

### アメリカの大学基金の収益率(1980~2010)

	年間収益率
全大学平均 (850校)	<b>8.2%</b>
イエール大学 プリンストン大学 ハーバード大学	<b>10.2%</b>
10億ドル以上 (60校)	<b>8.8%</b>
5~10億ドル以上 (66校)	<b>7.8%</b>
1~5億ドル以上 (266校)	<b>7.1%</b>
1億ドル未満 (498校)	<b>6.2%</b>

## 世界の成長率(1987~2013)

### 実質成長率

上位1億分の1の  
資産保有者

**6.8%**

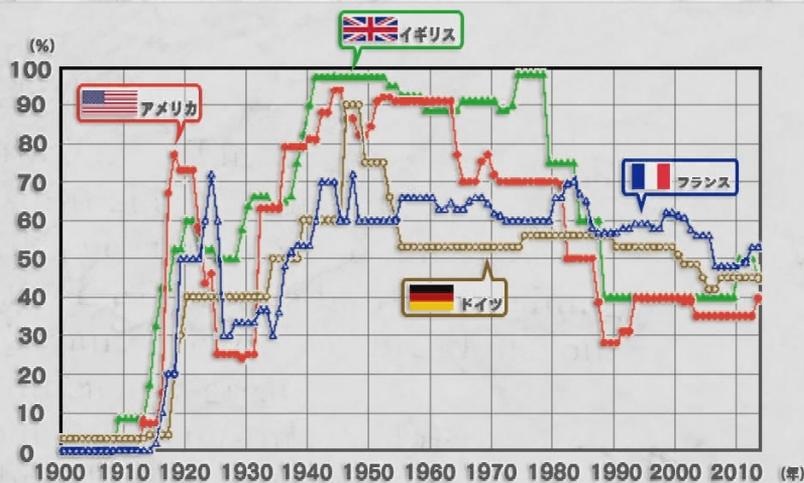
上位2千万分の1の  
資産保有者

**6.4%**

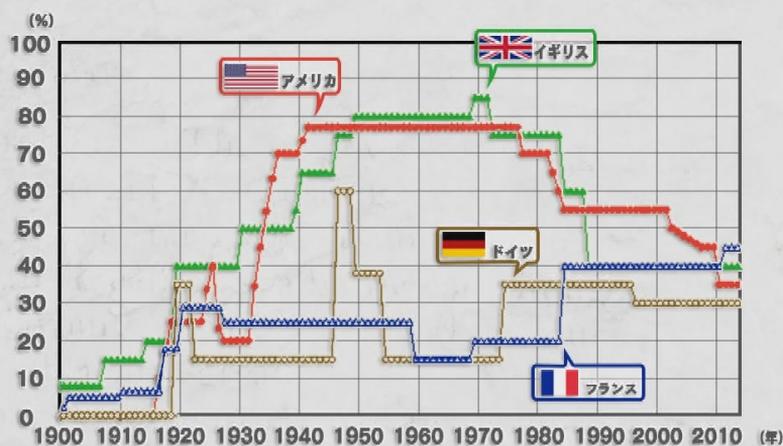
成人1人あたりの  
平均資産

**2.1%**

## 所得税の最高税率



## 相続税の最高税率



### 今日の経済の特徴

- ・資本所有の不平等が、資本所得比率の上昇および成長率の減速と同時に進展している。
- ・総資産の4分の1から3分の1を保有する世襲型中流階級 (patrimonial middle class)が存在する。

$r > g$ は、論理必然的というよりは歴史的事実。

- ・国民所得の4割を占める資本所得の4分の1が貯蓄された場合、それによる貯蓄は総貯蓄の半分 (10%)。これが5%で運用されれば、資産が所得より早く成長する。

## 現状と今後

- $r > g$ は資本主義の根本的な矛盾であり、主要な不安定要因である。過去が未来をむさぼり食う。
- 19世紀以前  $r$ は4.5～5%、 $g$ は0.1～1.5%であった。21世紀の  $r > g$ は19世紀以前ほどではないにせよ、それに近づく。今後の長期的な経済成長率は、1.5%程度 (p. 357)で、資本収益率 ( $\gamma$ ) は4～5%で推移するであろう。

## 何が必要か？

- ① 資産と所得に対する累進課税制：純資産100～500万ユーロに1%、500万ユーロ以上に2%、10億ユーロ以上には5～10%。資本所得比率の拡大は、ピケティにとって、不平等の拡大の要因であるとともに、財政赤字など経済問題の解決の材料でもある。
- ② 増税による財政赤字の削減と社会的国家の維持は両立可能
- ③ 欧州財政議会の必要性
- ④ 金融取引税(the Financial Transactions Tax)

## 主流派経済学からのピケティ批判 I

- Acemoglu and Robinson, *The Rise and Decline of General Laws of Capitalism* (2015)
  - ・「ピケティは技術や制度の役割、その内生的進化を考慮しない」  
(→賃金を引き上げる技術革新と制度改善の可能性を否定している。)
  - ・「 $r > g$  は不平等は無関係。所得格差の拡大は労働需要の変化と教育など制度的要因で説明可能である」

## 主流派経済学からのピケティ批判 II : Gregory Mankiw

- *Defending the One Percent* (2014)
  - ・「1%は不当な方法によって富を増やしたわけではない。スキルに対する需要のシフトとそれに対する能力主義的対応が不平等をもたらした」
  - ・「政府は企業の生産性を客観的に把握できない。したがって不平等を政策的に是正することは難しい」
  - ・「すでに高額所得者は多額の税金を支払い、政府は大規模な再分配政策を行っている。左派のいう富裕者増税は不要である」
- *Yes,  $r > g$ . So What?* (2015)
  - ・「 $r > g$  は経済にとって正常な状態にすぎない。分割相続による資産の縮小、相続税、資本所得税などをあわせると、実際のギャップはごくわずか。r が 7% を超えないとピケティのいう問題は起こらない。
  - ・「ピケティは不平等が悪だと決めつけているが、不平等のもとでも民主的価値が損なわれることはない。平等な経済は繁栄の度合いが小さい」

### マルクス主義陣営からの批判

- Devid Harvey, *Afterthoughts on Piketty's Capital in the Twenty-First Century* (2014)

- ・「ピケティの議論には、 $r > g$  を拡大させるメカニズムの説明が欠如している。階級的な力関係の変化が所得格差拡大の根源である。80年代の反インフレ政策は失業を増大させ、意識的に労働者の力を減退させた」(Harvey, 2014) 「新投資を抑制することによって資本収益率を押し上げている」(p. 85)

- ・「資本の定義に誤りがある。資本はあくまでプロセスであり、モノではない」「異なった性質の資本を計測することには技術的な問題がある」「 $r$  は  $g$  に依存し、投機的条件によっても規定される」

- Yanis Varoufakis, *Interview* (2014)

- ・「不平等は階級関係、政治的交渉力の変化の結果。左派はこれを看過すると政策的手がかりを失う」「資本と資産の概念」「資本の計測」「クルーグマンの方がまし」(Varoufakis, 2014)

### 批判に対する反論

- Robert Solow, *The One Percent* (2014)

- ・「1%の大半は金融分野。規制を利用したレント・シーキング」

- ・「不平等は権力の集中を生むことによって政治的影響力の格差と政治的腐敗をまねく。」

- Thomas Edsall, *Thomas Piketty and His Critics* (2014, May 14)

- ・「ピケティの議論の影響で、RogoffやFrankelといった政治的中間派が緩やかな再分配政策を主張するようになった」「ピケティがいう世襲資本主義の到来はアメリカ的価値観に対立する。ピケティは、資産の格差に基づく社会的、政治的秩序に対する挑戦の知的基盤を築いた」

## ピケティ自身による反論

### ● About Capital in the 21<sup>st</sup> Century (2015)

・「 $r > g$  は労働所得には強い作用を及ぼさないが、資産格差には大きく影響を与える。 $r - g$  のギャップが 2% の場合と 3% の場合とでは、逆パレート係数が 2.28、3.25 となり、上位 1% 集中は、20~30% から 50~60% となる」

・「消費税は相続した富と自ら築き上げた富とを区別せず課税する。高額所得者は政治的影響力や威信を買うために支出するが、そうした消費には課税できない」

・「 $\alpha$ 、 $\beta$  の上昇は、資本と労働の限界代替率が 1 より大きいということよりも、むしろ要素の相対価格の変化の要因による。報酬をめぐる交渉力、技術革新、不動産取引の規制、運輸、建築などの規制の変化など」→資産に占める不動産の割合の上昇傾向

### ● Thomas Piketty Responds to His Critics (2014)

・「世界政府のようなものを作ってグローバルな資産課税を直ちにおこなうと主張しているわけではない。まず各国で税制改革を行い、金融機関の情報共有をすすめる政府間合意を積み上げていくことが先決」

The screenshot shows a web browser displaying a Business Insider article. The article title is "The Greek government is calling for a radical new 'basic income' welfare policy" by Tomas Hirst, dated February 24, 2015. The article is categorized under "POLITICS" and "Greece". Below the title, there are social media sharing buttons for Facebook, LinkedIn, Twitter, Email, and Print. A list of sponsored links is visible, including "Buffett Admits This Is A 'Real...' (The Motley Fool)", "Shocking Video That The Eyecare..." (Vision Protocol Guide), "15 Of The Most (Horrrific) Family..." (BetterFamilyHome.com), and "15 Of The Rarest (And Most Mind..." (LOLWOT). The main text of the article begins with "Within the letter sent by Greek finance minister Yanis Varoufakis to the European Commission, the ECB, and the IMF last night — allegedly 45 minutes before the". A small portrait of Yanis Varoufakis is visible on the right side of the article.

The screenshot shows a web browser window with the URL [www.nytimes.com/2013/11/17/magazine/switzerlands-proposal-to-pay-people-for-being-alive.html?\\_r=0](http://www.nytimes.com/2013/11/17/magazine/switzerlands-proposal-to-pay-people-for-being-alive.html?_r=0). The page is from The New York Times Magazine, dated November 12, 2013. The article is titled "Switzerland's Proposal to Pay People for Being Alive" by Annie Lowrey. The text describes a proposal where the Swiss government would pay every citizen a monthly income of eight million coins, delivered by a truck. The proposal is presented as a publicity stunt for advocates of a basic income scheme. The article is categorized under "IT'S THE ECONOMY".

Switzerland's Proposal to Pay People for Being Alive

By ANNIE LOWREY  
Published: November 12, 2013 | 628 Comments

IT'S THE ECONOMY

This fall, a truck dumped eight million coins outside the Parliament building in Bern, one for every Swiss citizen. It was a publicity stunt for advocates of an audacious social policy that just might become reality in the tiny, rich country. Along with the coins, activists delivered 125,000 signatures — enough to trigger a Swiss public referendum, this time on providing a monthly income to every citizen, no strings attached. Every month, every Swiss person would receive a check from the government, no matter how rich or poor, how hardworking or lazy, how old or young. Poverty would disappear. Economists, needless to say, are sharply divided on what would reappear in its place — and whether such a basic-income scheme might have some appeal for other, less socialist countries too.

The proposal is, in part, the brainchild of a German-born artist named Enno Schmidt, a leader in the basic-income

Resting Peacefully After Free Cleft Surgery  
A New Life Awaits

Amiri Baraka, Polarizing Poet and Playwright, Dies at 79  
Christie Fires Aide in Bridge Scandal as U.S. Opens Inquiry

あらゆる現実はかつては空想でしかなかった。

What is now proved was once only imagined.

(ウィリアム・ブレイク「天国と地獄の結婚」)